

8 結婚における問題意識と人権意識－＜視点6＞

(1) 結婚相手の条件と人権意識

結婚相手を考える際に気になることと「排除問題意識」、「人権推進支持意識」、「反忌避意識」との相関を調べたのが、表 8-1 です。

表 8-1 結婚相手の気になる事柄と人権意識

結婚相手の条件		本人			子ども		
		排除問題意識	人権推進支持意識	反忌避意識	排除問題意識	人権推進支持意識	反忌避意識
問5i1人柄、性格	平均値	3.1	3.9	3.0	3.1	3.9	3.0
	度数	595	586	607	570	565	583
	標準偏差	0.6	0.8	1.1	0.6	0.8	1.1
問5i2趣味や価値観	平均値	3.1	3.9	3.0	3.1	4.0	2.9
	度数	396	386	404	282	284	291
	標準偏差	0.6	0.8	1.2	0.6	0.8	1.2
問5i3仕事に対する相手の理解と協力	平均値	3.1	3.9	2.9	3.1	4.0	2.9
	度数	320	319	327	305	300	313
	標準偏差	0.6	0.8	1.2	0.6	0.8	1.1
問5i4家事や育児の能力や姿勢	平均値	3.1	4.0	2.9	3.1	3.9	2.9
	度数	270	268	278	280	277	286
	標準偏差	0.6	0.8	1.2	0.6	0.8	1.1
問5i5経済力	平均値	3.0	3.9	2.9	3.0	3.9	2.9
	度数	344	340	353	392	385	399
	標準偏差	0.6	0.8	1.1	0.6	0.8	1.1
問5i6学歴	平均値	2.9	3.9	2.5	2.8	3.8	2.5
	度数	91	91	95	129	130	135
	標準偏差	0.7	0.8	1.1	0.7	0.8	1.1
問5i7職業	平均値	2.9	3.9	2.6	3.0	3.9	2.6
	度数	177	173	184	240	236	247
	標準偏差	0.7	0.8	1.1	0.7	0.8	1.1
問5i8家柄	平均値	2.8	3.7	2.4	2.8	3.7	2.4
	度数	95	92	101	131	128	137
	標準偏差	0.7	0.9	1.0	0.7	0.8	0.9
問5i9離婚歴	平均値	2.9	3.9	2.6	3.0	3.9	2.6
	度数	144	134	139	192	189	194
	標準偏差	0.7	0.8	1.1	0.7	0.8	1.1
問5i10国籍・民族	平均値	2.8	3.7	2.4	2.7	3.7	2.3
	度数	174	167	175	180	174	181
	標準偏差	0.7	0.9	1.0	0.7	0.9	1.0
問5i11相手やその家族に障がい者の有無	平均値	2.8	3.9	2.2	2.8	3.9	2.3
	度数	88	80	87	127	119	125
	標準偏差	0.6	0.8	0.9	0.6	0.8	1.0
問5i12相手やその家族の宗教	平均値	3.0	3.8	2.6	2.9	3.8	2.6
	度数	207	206	211	225	224	231
	標準偏差	0.6	0.8	1.0	0.6	0.8	1.0
問5i13一人親家庭かどうか	平均値	2.5	4.1	2.6	2.7	4.0	2.2
	度数	23	22	23	50	49	50
	標準偏差	0.6	0.8	1.0	0.7	0.8	1.1
問5i14同和地区出身者かどうか	平均値	2.7	3.7	2.2	2.7	3.7	2.1
	度数	116	111	118	138	135	142
	標準偏差	0.6	0.9	0.8	0.7	0.9	0.8
問5i16とくに気になる(気になった)ことはない	平均値	3.1	3.9	3.0	3.1	3.9	3.0
	度数	628	621	642	599	594	614
	標準偏差	0.6	0.8	1.1	0.6	0.8	1.1

注：太文字は有意差あり。 太い斜め文字は、有意差があり、数値の低い方を指す

結婚相手の条件として、自分の場合も子どもの場合も、「趣味や価値観」は、「排除問題意識」の高い人ほど条件として選択する傾向にあります。反対に、「学歴」、「職業」、「離婚歴」、「相手やその家族に障がいのある人がいるかどうか」、「ひとり親家庭かど

うか」は、自分自身の場合も子どもの場合も、「排除問題意識」、「反忌避意識」の相対的に低い人ほど気になる傾向にあります。

さらに、「家柄」、「国籍・民族」、「同和地区出身者かどうか」については、「排除問題意識」、「反忌避意識」、「人権推進支持意識」の低い人ほど気になる傾向にあることがわかります。しかも、「同和地区出身者かどうか」、「相手やその家族に障がいのある人がいるかどうか」、「国籍・民族」、「ひとり親家庭かどうか」、「家柄」が気になる人の「反忌避意識」の低さは顕著です。

【知見】

- 「排除問題意識」、「反忌避意識」、「人権推進支持意識」の低い人ほど、結婚相手を考える際に、「学歴」、「職業」、「家柄」、「離婚歴」、「相手やその家族に障がいのある人がいるかどうか」、「ひとり親家庭かどうか」、「国籍・民族」、「相手やその家族の宗教」、「同和地区出身者かどうか」が気になる傾向にある。
- 「同和地区出身者かどうか」、「相手やその家族に障がいのある人がいるかどうか」、「国籍・民族」、「ひとり親家庭かどうか」、「家柄」が結婚相手を考える際に気になる人は、「反忌避意識」が極めて低い傾向にある。

(2) 「同和地区出身者かどうか」が気になる人の人権意識

結婚相手を考える際に「同和地区出身者かどうか」が気になる傾向は、同和問題の理解の仕方と関連しているものと推測されます。

そこで、結婚差別の解決に向けた将来展望と結婚相手を考える際に「同和地区出身者かどうか」が気になる傾向との関連をみました。

表 8-2-1 「同和地区の人たちに対する結婚差別は近い将来なくすことができると思うか」×結婚相手を考える際に「同和地区出身者かどうか」が気になる（自分自身の場合）

		問5i14同和地区出身者かどうか		
		あてはまる	あてはまらない	合計
問20.1近い将来、なくすことができると思うか	なくすことができる	33 14.2%	200 85.8%	233 100.0%
	わからない	17 9.8%	156 90.2%	173 100.0%
	なくすのは難しい	58 29.9%	136 70.1%	194 100.0%
合計		108 18.0%	492 82.0%	600 100.0%

$\chi^2 = 28.757$ $df=2$ $p=.000$ ***

注：「なくなっている」「完全になくすことができる」「かなりなくすことができる」をまとめて、「なくすことができる」としている。

表 8-2-1 から、「近い将来、同和地区の人々に対する結婚差別をなくすのは難しい」と考えている人は、「なくすことができる」と考えている人よりも、結婚相手を考える際に「同和地区出身者かどうか」が気になる傾向にあることがわかります。

【知見】

- 近い将来、同和地区の人びとへの結婚差別をなくすことがむずかしいと考えている人は、なくすことができると考えている人よりも、結婚相手として「同和地区出身者かどうか」を気にする傾向にある。

また、同和地区に対してマイナス・イメージを持っている人ほど、結婚相手を考える際に「同和地区出身者かどうか」が気になる傾向にあるのではないかと考えられます。

表 8-2-2 は、「差別の社会化」の受け止め方と、結婚相手として「同和地区出身者かどうか」を気にする傾向との関連をみたものです。

表 8-2-2 「同和地区の人はこわい」「同和対策は不公平だ」というような話を聞いたときどう感じたか×結婚相手を考える際に「同和地区出身者かどうか」が気になる（自分自身の場合）

		問5i14同和地区出身者かどうか		
		あてはまる	あてはまらない	合計
問22.2 その話を聞いたときどう感じたか	そのとおりに思った	30 31.6%	65 68.4%	95 100.0%
	そういう見方もあるのかと思った	50 23.1%	166 76.9%	216 100.0%
	とくに何も思わなかった	5 15.2%	28 84.8%	33 100.0%
	反発・疑問を感じた	8 16.0%	42 84.0%	50 100.0%
	聞いたことはない	15 7.3%	190 92.7%	205 100.0%
合計	108 18.0%	491 82.0%	599 100.0%	

$\chi^2=31.872$ $df=4$ $p=.000$ ***

差別の社会化を経験して、「賛同」あるいは「容認」した人ほど、結婚相手を考える際に「同和地区出身者かどうか」が気になる傾向にあることがわかります。

【知見】

- 差別の社会化を経験して、「賛同」あるいは「容認」した人ほど、結婚相手を考える際に「同和地区出身者かどうか」が気になる傾向にある。

さらに、同和地区の人びととの関わりの経験のある人はない人よりも、結婚相手として「同和地区出身者かどうか」を気にする傾向が低いのではないかと考えられます。

そこで、問 23 のそれぞれの関わり方と、結婚相手として「同和地区出身者かどうか」を気にするかどうかと関連をみしました。

しかし、統計的に有意差のある関連は認められませんでした。